

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	敬老バス運行事業			事業コード	0437
所属コード	066500	課等名	長寿社会課	係名	生きがい推進係
課長名	藤澤 忠範	担当者名	弥藤 紘子	内線番号	3568
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者の社会参加の促進	コード	1
予算費目名	一般会計 3 款 1 項 3 目 敬老バス運行事業(007-04)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 52 年度
根拠法令等	敬老バス使用要綱			

(2) 事務事業の概要

単位老人クラブの活動等の際に年 2 回バスを貸し出し，老人クラブ事業の推進を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 51 年 9 月に指定を受けた「老人のための明るいまちづくり推進事業」の活動促進事業として，敬老バスを購入し，老人クラブの自由活動を円滑にし，レクリエーション，研修活動等の促進を図ったことを契機として，敬老バス使用要綱(昭和 52 年市長決裁)に基づき実施された。
現在は民間事業者へ委託し，実施している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

利用者から，運行回数の増加や利用範囲を拡大してほしい旨の要望がある。
高齢者人口の増加とともに，利用者数も増加の傾向にある。利用日が重複する場合は抽選としている。老人クラブ以外の高齢者団体からの利用希望も出ている。
外部監査からリスク分担を明確にすべきとの指摘により，平成 25 年度より契約方法を見直し，単価契約にて実施している。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

市内単位老人クラブ(概ね 60 歳以上が加入)等

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 市内単位老人クラブ(当該年度4月1日現在)	個	256	255	252	252	252
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

敬老バス(業者委託)を無料で老人クラブの活動等に提供する。(1 団体につき年 2 回まで。)

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 敬老バス運行回数	回	409	415	404	400	376
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

交通手段を支援されることにより, 外に出る活動が増える。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 敬老バス運行回数	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	回	409	415	404	400	376
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	① 国	千円	0	0	0	0	0
	② 県	千円	0	0	0	0	0
	③ 地方債	千円	0	0	0	0	0

	④ 一般財源	千円	9,240	8,925	11,102	9,504	10,320
	⑤ その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	9,240	8,925	11,102	9,504	10,320
人件費	⑥ 延べ業務時間数	時間	20	20	32	20	32
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	80	80	128	80	128
計	トータルコスト A+B	千円	9,320	9,005	11,230	9,584	10,448
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：当該事業の活用により、老人クラブ活動が活発化し、クラブ加入者の日常生活に豊かさが生まれ、高齢者の社会参加の促進や生きがい活動、健康増進が推進されるため。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：当該事業は高齢者の社会参加を促進し、生きがい活動を推進する事業であることから、市が実施すべき事業である。

③ 対象の妥当性

見直しの余地がある。

理由：老人クラブへの加入者が減少し、クラブ加入以外の地域の高齢者団体からも利用申請が出ているが、予算の関係上、本年は他団体への貸し出しは難しい状況である。
老人クラブ以外の高齢者団体へも貸し出すことで、成果向上が期待できる。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

理由：老人クラブの活動範囲が狭まることにより、活動が停滞する。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上余地がある。

理由：老人クラブ以外の町内会等地域の高齢者団体にも貸し出すことで、成果向上が期待できる。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

全ての老人クラブを対象としていることから、公正・公平である。

また、老人クラブ等、高齢者の活動支援を目的としている事業なので、受益者負担はなじまない。

(4) 効率性評価

外部委託による事業運営としており、毎年、複数のバス運行事業者により競争性を確保しながら、入札を実施しているため、事業費の削減は難しい。

また、事業の内容は、バス事業者との委託契約関係がほとんどである。利用申し込みの受付事務及び配車調整は盛岡市老人クラブ連合会で行っているため、人件費の削減も難しい。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

また、当市では、老人クラブの活性化に力を入れており、クラブ活動を支援する当該事業の役割も大きくなってきていることから、1日の運行台数を含めた運行回数や運行範囲について検討する必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

近年のバス事故増加に伴い、安全にバス利用を図る必要があることから、安定した事業運営ができるよう、予算確保について検討する必要がある。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

高齢者の生きがいづくり事業として需要が高く、外出意欲を高めるとともに、仲間づくりを支援する取組として重要性が増している。

利用者の費用負担など事業運営について、必要に応じて見直しの検討を行う必要がある。